

## 故 成茂 榮一 大社長を偲んで

ナリシゲグループの創始者・成茂 榮一 大社長は、2011年11月2日(水)、午前1時10分に永眠されました。享年92歳でした。ここに、謹んで哀悼の意を表し、ご通知申し上げます。

当ナリシゲグループは、大社長と先生方との連携により生まれ、成長しました。大社長を偲び、その足跡を簡単にご紹介したいと思います。

### 足跡

成茂 榮一 大社長は大正8年(1919年)10月1日、長崎県南松浦にて生まれました。その後東京大学理学部物理学教室に技官として奉職し、研究者の方々と共に研究機器の開発と制作に従事していました。そこで多くの、これからの日本の科学を牽引する先生方と出会いました。

そして昭和28年(1953年)、英国と米国の研究者を中心として開発された微小電極法を日本生理学会が導入するところとなり、それを機に我が国で初めて微小電極法に関連した機械器具の制作に着手する為に成茂製作所を立ち上げました。成茂製作所に於いては、多くの先生方のご要望にその技術と情熱をもって応え、信頼をいただきました。今もこの理念は、当グループの企業理念である「世界のマシンショップであれ」という言葉に引き継がれています。

昭和31年(1956年)には、本格的な微動操作器—マイクロマニピュレーターや、動物用の脳定位固定装置の制作にも着手し、昭和33年(1958年)には株式会社成茂科学器械研究所と改組し、代表取締役として多くの人へと研究機器を提供することを目指しました。



1950年頃 藤木保次先生と



従来の実験で最大の障害であった手の振動を解決すべく、昭和44年(1969年)には油圧微動操作器の開発に着手しました。折しも1970年代はバイオテクノロジーの幕開けの年代であり、ミクロの世界での操作技術が要求されるようになってくる時代でした。

そして昭和58年(1983年)、遺伝子組み換えやマイクロインジェクションなどバイオテクノロジーの著しい発展に伴い、油圧微動操作器の技術を発展させて、一つのレバーで3次元空間を微動操作出来るジョイスティックタイプの機器を開発し、特許を取得しました。

若い研究者の力になれればと、昭和57年(1982年)には成茂神経科学研究助成基金、後の平成3年(1991年)には成茂動物科学振興基金設立を設立しました。

昭和60年(1985年)、顕微鏡が見る時代から触る時代になったのを受け、株式会社ナリシゲを設立し、顕微鏡会社との連携を強化しました。また、アメリカとロンドンにオフィスを設けてアフターサービスの強化を行い、海外市場への積極的な参入を図り、グローバルな規模においての産業へと発展させていきました。



大社長はバイタリティーにあふれ、研究者からの様々な製品製作の要請に対し、ユニークな発想と豊かな創造性を発揮し、これに協力してきました。その精神はいまでもナリシゲのスタッフに引き継がれています。

平成15年(2003年)には、創業50周年を達成し、戦後の半世紀において世界の科学者たちからの高い評価を受けてきたことへの実績を示しました。私達社員一同はこれからも、その信頼を失わずに頑張っていきたいと思えます。

### お別れの会



さる2011年12月8日(木)、東京都青山葬儀所にて、成茂 榮一大社長お別れの会が開かれました。寒い曇り空の中でしたが、多くの方にご会葬頂きました。ありがとうございました。

先生方からの暖かいご弔辞にて、大社長との思い出をお聞きすることが出来ました。社員一同、改めて大社長の業績の偉大さと、愛された人柄を感じ、我々はその意志を受け継ぎ、一丸となって力を尽くしていきますので、皆様方のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

\*お別れの会の様子に関しては、後日このニュースとは別にご報告させていただきます。